

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570200867		
法人名	有限会社 ケアセンターみやこじま		
事業所名	グループホーム ふるる(ひまわりユニット)		
所在地	宮崎県都城市安久町5596番地1		
自己評価作成日	令和 3年 7月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 宮崎県介護福祉士会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉人材センター人材研修館内		
訪問調査日	令和3年9月16日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の周辺には畑が多く、のどかな場所に事業所があり、夜間も車の往来も少なく夏、秋頃には虫の鳴く音が聞かれる。そのような環境の中で利用者様元気に毎日をご過ごされています。利用者様の個別ケアを重視した取り組みをスタッフ全員で連携を図りながら業務を行っており、又働き易い職場作りとして勉強会(1回/月)、研修参加(今年はコロナ禍の為自粛)など法人挙げて取り組みを行っております。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな環境のもとで、建物は広く明るい空間の中、入居者の方々は穏やかで安らぎのある日々を過ごされている。施設長中心に研修に取り組み、職員も入居者への言葉かけも丁寧で、ケアに対する生きがいを感じながら働くことができている。地域との交流や災害時に備えての訓練なども、協力をもらうことができている。近くの保育園児や中学生との交流の受け入れをするなどの取り組みもされている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は、温もりと安らぎです。施設内に掲示して職員間で共有を図っています。	玄関横などに掲示することで共有し、月1回の職員会議において触れている。しかし6年以上前に作られた理念であり、見直しはしていない。	現在の管理者・職員の、介護への思いや大切にしたいことを話し合い、理念の見直しに取り組まれることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は、コロナ禍の為地域のつながりが難しくなっている。	自治会に加入している。地域の環境美化に協力したり、近くにある保育園や中学校との交流、ボランティアで創作品などの寄贈もある。現在も感染症予防対策の中で、できる事を模索している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	公民館長より地域の方々への事業所の業務内容等の紹介をお願いしております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では事業所の運営や業務内容について報告を行い、改善事項等について意見やアドバイスを頂いております。	今年度は書面での開催を主としている。入居者の活動の様子など写真を添付し、推進委員にホームの様子を伝えている。会議の活性化をどのように図っていくかを検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当課との連携を図り、相談を行ったり、アドバイスを頂いたりして運営に取り組んでおります。	感染症対策や災害時の防災情報を得るようにしている。身寄りのない方の支援など、相談をしたこともある。更なる社会資源の確保など、行政との連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指針に基づき身体的拘束についての取り組みを行っております。	月1回の勉強会を通して、適切なケア方法について統一できるようにしている。管理者は現場の職員の意見を聴き、振り返るようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内の勉強会や研修を活用して虐待防止に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を通じ、権利擁護の理解を深め、支援に繋げるように心がけています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様、ご家族が納得されるまで説明を行い、疑義が生じないように努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置して意見や要望を頂けるようにしております。	家族には、電話にて入居者やホームの事を伝え、意見を言いやすい関係を築くようにしている。入居者からは日々の会話の中から要望を聞くようにし、おやつ希望や、入浴の同性介助の要望があり対応している。	感染症予防対策の中で、家族の足がホームから遠のく状況でもある。家族との関係性を保ち、相互に意見が言いやすく成るための更なる取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の中で意見、要望などを聞いて協議を行っております。	職員の休みの希望を調整したり、その他の職員意見は管理者が集約し、経営者に伝えるようにして改善に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働き易い環境作りを常に心がけて職員の意見を聞いて改善に努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員については、事業所内研修マニュアルを基に研修を実施し、外部研修参加を活用してスキルアップにつなげています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	時には地域の他事業者との意見の交換を行い、サービスの質の向上に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時にご本人、ご家族よりできる限りの情報を得てサービス内容に取り入れるように努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時にご本人、ご家族よりできる限りの情報を得てサービス内容に取り入れるように努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時までにご本人、ご家族の意向を確認し、希望を聞いてサービスを決定しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に世間話をしたり、家事をお願いしたりして、共に生活を営む一員としての自覚を持ってもらうようにしております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の希望があればご家族に電話をしたり、外出の同行をお願いしたりして本人との時間が持てるようにしております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望があればご家族に電話をしたり、外出の同行をお願いしたりして本人との時間が持てるようにしております。	地元出身で帰宅希望のある方の外出支援は、本人に合わせて対応している。現在可能な方は手紙やはがきなどで触れ合う機会を設けたり、面会希望にソーシャルディスタンスを保ち会う機会を設けたこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入って他者との会話に誘ったり、気の合う利用者同士の椅子の配置を行ったりしてコミュニケーションを図りやすい環境作りを心がけております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご本人、ご家族からの要望があれば相談や支援できるように努めております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人一人の思いを尊重し、本人の言動を観察しながら思いをくみ取れるように心がけています。	日々のケアの中より、言葉や行動において、意向を理解するように努めている。食事やトイレ、日々の日課が本人本位の支援に繋げるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様のこれまでの人生の歩みを把握し、サービスに活かせるように努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中での様子や言動を観察し、状態把握に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンス会議を活用し、利用者様の状態変化に対応できるように心がけております。	本人の様子や家族からの情報を基に、担当者がアセスメントを行い、介護計画を作成している。職員会議で意見交換を行い、より現状に即した内容となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録に日々の様子を記録し、申し送りの中で内容を共有し介護計画に反映させております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族が納得できるサービスの提供が行えるように職員間の連携を取って業務を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の消防団、派出所等と連携を取り、災害時に限らず、日常生活を安全に、安心して暮らせるように支援しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の健康状態を常に把握して、定期的にかかりつけ医に報告し、指示を仰ぎながら適切な医療を受けられるように支援しております。	家族の通院対応が困難な場合、現在はホームが対応している。かかりつけ医とホームの看護師が情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康状態に関することは事業所の看護師に報告し、指示を仰ぎながら対応しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には定期的に入院先の担当者と連絡をとり状態の把握に努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にご家族へ終末期の対応についての意向を伺い、方針を共有しながら支援に取り組んでおります。	緊急時の対応や延命処置の希望を確認している。状態変化時に再度確認を行い、重度化や終末期においても、意向に基づいて対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修等を活用し、緊急時の対応についての知識を高め、支援に努めております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を活用し、地域の方の参加も促し非常時に備えております。	隣接する有料老人ホームと協力し、避難する体制ができている。区の訓練では夜間を想定し、実施している。地域の消防団との協力体制がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人に合った温もりのある声かけを目標にしております。	現在の理念を基に言葉かけに注意している。排泄時にプライバシーに配慮し、場所や声掛けにも工夫している。日常生活の中にも、尊厳を保ち、丁寧な言葉使いを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	結論を急がせず、その人が可能な意思表示の方法を把握し自己決定ができるように対応しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先するのではなく、利用者様のペースに合わせたケアを心がけております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の更衣の声かけ、散髪や爪切り等その人らしい身だしなみができるように心がけています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳時にはメニューの紹介をして、食後にはお膳や食器拭きの手伝いをお願いしております。	入居者ごとに可能であれば配膳下膳の手伝いをされる方もいる。必要な方には介助や食事形態の工夫を行っている。口腔ケアの促しや介助を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事量、水分摂取量の把握に努め食事制限のある利用者様については病院とも連絡を取りながら支援を行っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で歯磨き、嗽のできる方はやってもらい、できない方は職員が介助を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意、便意があり、トイレで自力排泄のできる方は見守りを行い、尿意、便意のない方や場所が分からない方は声かけ、誘導を行っております。	尿便意のパターンの把握に努めているが、日々の変化もあるため、観察し対応している。自尊心を大切にし、本人の意向に応じてトイレへの誘導や見守りがなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の利用者様には、軽運動の声かけや水分摂取量の調整等を行い、かかりつけ医とも相談しながら予防に務めております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間は決めてあるが、その日の利用者様の状態や意見を聞いて柔軟に対応しております。	入浴は週2回入れるように支援している。本人の様子を見て、声掛けのタイミングを考慮して、スムーズに入れるように支援している。同性介助の希望にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の日課は決めてあるが、本人の様子を見ながら無理強いはいないように対応しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援についてはダブルチェックを行い、症状の変化が見られる時には看護師に報告し、かかりつけ医の指示も仰ぎながら対応しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味(編み物、歌、読書等)のある方については生活の中に取り入れて頂き、少しでも張りのある生活が送れるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為遠出の外出はできておりませんが、施設周辺の短時間の散歩は気分転換も兼ねて実施しております。	本人の希望や様子に応じて、外出支援や散歩を取り入れている。以前は家族の協力を得て外出支援を行う取り組みをしてきた。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持や管理が可能な利用者様は現在はおられない。施設で行う模擬店では施設で作った引き換え券を使って買い物をして頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話での会話や手紙のやり取りができる人には支援を行っております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な臭いや音、温度には特に気を配りできるだけ季節感のある飾りつけ等で環境作りを行っております。	共用空間は広々とした造りである。催し物も行えるスペースがあり、そこにはソファも置かれている。天窗より光も差し込み明るい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニット内、ホールなどソファを配置して、気軽に他の利用者の方と過ごせる空間作りを行っております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込み品はできるだけご本人が使い慣れた物を持って来てもらい、違和感なく生活できる環境作りを行っております。	入居者ごとに使い慣れた物が、心身機能に応じて配置されている。出入り口は本人が分かり易く工夫されている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、障害物の除去、自分の部屋が分かる目印等、安全かつ自立した生活が送れるように支援しています。		